
ちばしや通信

Vol.20



画 くさびら八郎

【トピック】

- | | |
|------------------|---------------|
| ♪ 「寄り添うケアのはじまり」 | ♪ つれづれなるままに |
| ♪ 「心地よい関係性のバランス」 | ♪ 各種イベント案内 |
| ♪ 私の子育て奮闘記 | ♪ “ときがね”なひととき |
| ♪ 起業・就労・支援の間で… | ♪ 法人からのお知らせ |

寄り添うケアのはじまり

『みちこばあのやきもち』

「今日はお客さんが来るから
やきもち焼いとう」

ながら、急がない、ゆっくりと
した時間の中で会話も弾みま
す。

ミチコさんは、島外からお客
様が来られたり、小規模多機能
ホームだからで地域の方をお呼
びして行事をすると必ず得意の
やきもちを焼いてくださいま
す。『やきもち』とは黒糖独特

宝島に來られて3年の月日が
流れました。当初、沢山の方々
が心配をしていました。帰って
來られて、一度も大きな病氣も
されず入院していません。

のほんのりとした、どこか懐か
しい甘さは、田舎のばあちゃん
の味。やきもちを焼くのには、
少し時間がかかります。弱火で
ゆっくり焼かなくては、黒砂糖
たっぷりのタネは、すぐに焦げ
付いてしまいます。焼きたての
味や触感はたまりません。ミチ
コさんの優しい想いと懐かしい
甘さが詰まったやきもちには、
慌ただしい社会に対して「ゆっ
くりゆっくり」と立ち止まらせ
てくれる力があるように感じま
す。火の前で、火加減を調節し

それまで入所されていた鹿児
島市内の施設に比べれば、設備
の整っていない島での暮らしは
不便な生活だったと思います。
でも、長女の嫁ぎ先でもある宝
島にはミチコさんのことを知っ
ている人がたくさんおられまし
た。そして、ミチコさんが知っ
ている人も沢山いました。トイ
レに行くにも、お風呂に入るに
も、人に手伝ってもらわないと
いけない。誰かがいないと自由
にならない、いつも誰かにお願
いしないといけない生活って窮
屈だと思えます。時には自分の

思うようにしてもらえない、來
てもらえない時もあるでしょ
う。でも、「いつも、ありがと
うね。」がミチコさんの口癖で
す。この間、色んなことがあり
ました・・・。

「具体的取組み」

ミチコさんは持病として脳こ
うそく後遺症、糖尿病、高血圧
症があります。島に戻って來ら
れて数か月後の血液検査で糖尿
病の状態を表す数値に上昇がみ
られました。

血液検査の結果を受けて先ず
カンファレンスを行いその後ス
タッフミーティングで今後の実
践について検討しケアを行いま
した。カンファレンスはご本人、

御本人は甘い物や魚のお刺身が
本当は大好きです。地域の方々
も「ミチコさん、これ食べて」
と持ってきてくださいます。で
すが糖尿病なのでご本人も我慢
して量を減らしたりされ「こ
れ、食べていいかな」と周りの
スタッフに相談しながらの食事
をしていました。ミチコさんな
りに食事も気をつけ、そして運
動もできる限り毎日行ってきた
のですが、今回定期的に行っ
ている血液検査の結果、糖尿病
の状態が悪化していたのです。

ご家族、看護師、役場保健師、
スタッフが集まりを行い、看護
師から今の状況、この状況が続
く若しくは更に悪化することで
起こりうること、今後の対策、
また事業所としての責任など医
療面からの意見がありました。糖
尿病を悪化させないためには
運動と食事制限の両面からの努
力が必要ということを改めてご
指導いただき、ご本人もしっか
りと話を聞かれ今後に向けての
意欲が感じられました。そこで
ご本人と目標を決めることにな
り次回の血液検査（8月）へ向
けて数値を境界値（6.6）を目標
に下げていくこと、1カ月で体
重0.5kg減を掲げました。

カンファレンス後スタッフ全
員でミーティングを行い「次回

の血液検査への目標」を達成するためにどのような取り組みをするのか具体的に話し合いました。島のスタッフは全員が介護について未経験者です。また島民ということで島の食文化が馴染んでおり、栄養管理についても知識があまりなく、カロリーを

考えての献立や調理の基本である「計る」ということにも縁遠い状況がありました。食材も限られたものでの調理が多くなります。またスタッフそれぞれが「自分の作り方、やり方」「自分の味付け」をなかなか変えることが出来ませんでした。その中で男性スタッフが積極的に料理をしますが味がしない、おいしくないという言葉が聞かれました。

①工夫と思考錯誤の末、男料理で再挑戦

見よう見まねで計量しながら行いました。レシピ本を見ながら、クックパッドで検索しながらのカロリーを考えた献立としつかり「計る」調理が始まり

ます。彼が「計る」ことをしっかりと行い「おいしく食べていただく」ことに取り組む姿勢はご周りのスタッフにも伝わり「計る」ことが出来るようになりました。

②スタッフの食材面への要望を聞き、調理しやすい環境を作る

「計る」ことから減塩や低カロリーを意識したメニューのレシピを集めて持ってくるようになったスタッフも出てきました。島で収穫できるもの、売店で購入するものに加えて、生協の活用や食材の購入ルートを増やしてスタッフが調理しやすい環境に努めました。

③栄養管理の具体的な方法を話し合う

カロリーの計算については十島村役場の栄養士の方にご協力いただき食品交換表の活用や食事のとり方など基本的な事をご指導いただき食事のメニュー

表も今までの献立のみの記入から食品交換表を活用したものに變更し食品群のバランスや摂取カロリーがわかりやすいものになりました。食品交換表の活用により食事に対するスタッフそれぞれの意識が高まりメニュー表も毎日きちんと記入がされます。

(つづく)

黒岩尚文（くろいわなおふみ）

高校卒業時、お金が全く無くて進路指導の先生から「消防士がいい」と言われ喜んで受験。しかし見事不合格。気を取り直し当時最も学費の安い福岡大学商学部を受験。まぐれて合格。お好み焼きを4年間焼き続け卒業。卒業後、東京の不動産会社に入社。2ヶ月で鹿児島弁しか使えないことを見抜かれ福岡支店に流される。1年後フリーの不動産屋となり東京へ戻る。多くの方々にご飯を食わせて貰いながら生きていたがある朝、突然、顔面神経麻痺になり帰郷。リハビリの甲斐あってか、無かったか1年程かかって今の顔。平成7年4月より福祉の仕事につく。翌年5月より宅老所活動を始める。平成19年6月加治木町で共生ホームよかあんべという小さな小さな事業所を開設。細々とやっています。平成22年5月よりトカラ列島宝島、北海道幌加内町にも関わる。



心地よい関係性のバランス

第8回 困らない力と困る力

「困るとは」

「困ったらどうしよう」と思っ
て、困っていることがある。困っ
たら困るから、困らないように
しようとして必死になって、な
んだか徒労に終わってしまった
ような気分になる。やたらと空
回りしている自分に気づき、う
んざりしたりもする。うんざり
するとすぐに路線を変更する。

「困る前から困るのはやめて、
困ってから困ろう」などと、先
延ばしを決め込む。どうやら私
の中には、ものすごく周到な面
と、ものすごくざぼらな面が同
居しているようだ。でも、この
両極端な切り替えが、自分を支
えていると思うこともある。

福祉サービスは困った時に使
うものだが、上手に使えば困ら
ないためにも利用できる。今は
困っていないけれど、この先困
ることは明らかであれば、困ら

ないように利用するというの

は、非常によい方法だ。しかし、
困らないように先回り、先回り
して使うことが裏目に出る場合
もある。サービスがなくても何
の問題もなくやっていけるの
に、サービスがないとできない
に違いないと思ひ込むことで、
どんどん自分の力を弱めてしま
う。

こう考えると私もどこかの評
判の悪いお役人のように「困っ
てもいないのに、福祉サービス
を使うとは何事だ！」などと
言い出してしまいそうになる。
「困っていない人が使うから、
本当に困っている人の分が足り
なくなってしまうのだ！」と。

本当に困っている人は誰だろう
この議論になるといつも考える
ことがある。本当に困っている
人は誰だろう。困っている人は
大勢いる。確かに誰が見ても

困っていることが明らかかな人も
いれば、声は大きいけれど、そ
れほど困っているようには思え
ない人だっている。それでも、

本人に言わせれば困っているの
だから、困っているのだろうか：
とは思う。困っていると言うか
らには、きつと困っているのだ。
なんだかわけがわからなくなっ
てきた。

そんなことを考えている私
は、困っている人たちに「困っ
た」「困った」と言われて生き
ているのだが、時どき降って沸
いたようにとても困った状況に
ある人に遭遇することがある。
まるで、今日になって困ったと
いうような唐突な登場の仕方な
のに、ものすごく困っている。
もう、どうにもならないくら

い、問題が幾重にも錯綜してい
て、どこから、どう支援したら
よいのか、多くの人が知恵を出
し合ってもなかなかうまく解決
方法が見えてこない。にもかわ
らず、昨日まではそんなに困っ
ていなかったのだと言う。問題

の深刻さに比べて、本人の困り
具合がかみ合っていないように
感じることもである。

「困る力と困らない力のバランス」
本当に困っている人とは、困
ることさえできない人たちのな
かもしれない。「困っている！
助けてくれ！」と言える人は、
困る力のある人だ。「困ってい
る！」とさえ、叫ぶことができ
れば、誰かが力を貸してくれる
可能性が開けるのだ。しかし、
本当に困った状態の人は、自分
が困っていることにさえ気づけ
ない。「困っている！」と叫ぶ
ことさえ思いつかない。助けを
呼ぶことも、助けがあることに
も気づけないのではないだろう
か。

困らないように、自分で工夫
したり、がんばったりするのは、
困らない力。一方で、困つ
た時に、「困った、困った」と
誰かに助けを求めるのは、困る
力だと思う。もちろん、どちら
が正しいとか、どちらが間違い

とかいう問題ではない。あまりにも自分ひとりで困りごとを解決しすぎると、困る力が衰えてしまうこともある。逆にあまりにも自分で考えずに困ってばかりいると、困らない力が衰えてしまったりする。困りそうにならんと上手にサービズを使って切り抜ける人は、困る力と困らない力の両方をバランスよく使う人たちなのかもしれない。せめて困る力だけでも健在なら、それは立派に生きる力となる。

さて、困ってから困ろうという私の常套手段は、困る力の放棄かもしれない。それとも棚上げ力、はたまた留保力だろうか。いずれにせよ、困る力が力となるには、困った時に助けしてくれる人がいる地域であることが前提である。それだけは確かかなことだ。

※この原稿は、Juntos (フントス) CLC 発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

大友愛美 (おおともよしみ)

北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的障害者入所施設では地域と施設をつなぐコミュニケーションワーカーのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場(学校や研修)での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ぶだけではなく、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれないな...と感じている今日この頃です。

『びっころ流』

ともに暮らすためのレッスン

1,600円+税 絶賛販売中

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



私の子育て奮闘記

「場面緘黙についての変化」

長男の場面緘黙については以前もし触れたことがあるが、長男が一年生の夏休みから、段階的に緘黙についてのアプローチを行い徐々に変化してきた。

震災後、周りの人と話さなくなってしまうことが、相談機関等に行っても、あまりそこに対する具体的なアドバイスはなく、様子を見ていきましよう、話したくなるのを見守りましよう等等といったものが多かった。

行動分析の手法を使ったケースが多々変化をもたらしている研究結果が多いことをA B Aの先生から教えて頂き、段階的にアプローチを始めた。

詳細はここでは多すぎて書けないが、一年生の夏休みには、場面に對して、冬休みは人に対して意識をして場面を作っていた。具体的には夏休みには学校の教室を借りて、そこで声が出せるように環境を整え、声が出た時には強化子(ご褒美)を即時に与えるという手法で行った。校庭で話す、昇降口で話す、教室で話す等、細かく本人にとっての現段階から設定し、段階を一つ一つ出来たら、また次の段階へ進む

ということを意識して行った。

その成果か、冬休みには近所の子どもの中には声を発するようになり、卒園した保育園でも先生に声を出して挨拶できるようになった。また、クラスメイトに「おはよう」と声をかけられ、小さな声で「おはよ」と言ったというエピソードを他の子ども達から聞いたりしていた。震災後5年、今まで「おはよう」もなかなか声で返せなかったことを考えると、我が家にとっては大ニュースである。保育園の先生方も、「こんな日が来るなんて!」とその変化を我が子のように喜んで下さった。

療育の分野においては、スモールステップというのはよく聞く話だが、そのステップを本人の現在の状態とあるべき姿を照らし合わせて、小さな段階を作っていくことが本当に大切だなと感じた。自然に待っても変化していく人はいられるかもしれないが、我が家の場合は小さな段階ごとに、「できた」を本人にフィードバックしていったことが、今回の結果をもたらした気がしている。

それでも緘黙に関してはまだまだ途中段階。少し変化したことを喜びながら、進んでいきたいと思う。(おとめ)

起業・就労・支援の間で…

まちづくりから考える多様な福祉サービスの必要性

(コミュニケーションワークス 理事長 筒井啓介)

梅雨の時期が到来。なんだか気持ちまで鬱々となりがちですね…。今回は、初回の原稿に書いた私が学生時代に取り組んでいたまちづくりについて少し詳しく書きたいと思います。

大学2年生だった2000年9月、木更津駅前にある旧木更津そごうビルに木更津市行政との協働事業として開設されたのが起業支援センター「チャレンジセンターLETSきさらぶ」でした。行政の正式事業名称は「木更津市市民活動支援事業」。そして、私がこの事業に携わるきっかけとなった大学の先生から与えられた任務は事務局長という名の現場責任者でした。

が、2000年当時も財政悪化による行政サービスの低下、不況のあおりを受けた企業倒産やリストラ、毎年3万人を超える自殺者など日本社会は行き詰まり混沌とした状態にありました。これらを打開するためには、行政に頼るばかりではなく、私たち市民が中心となり、新しい価値観を持って、新たな社会をつくる必要があると訴えていました。これだけ多様化した地域の課題やニーズに対して、行政だけで全てを解決することはもはや不可能です。だからこそ、私たち市民の責任とリスクで地域に必要なモノやサービスを自ら提供していくことで地域課題の解決を図ることを目指して活動していました。

文ビジネスも組み合わせることとで、持続可能な市民起業やNPO活動の支援に取り組んでいました。木更津駅前の商業ビルという立地を生かしたチャレンジショップ(期間限定出店のための場所)の提供やビジネススクールの開催、事業相談、NPO法人の立ち上げ支援、空き店舗の情報提供、講座やイベントの開催など業務は多岐に渡りました。

私の活動フィールドである福祉分野でも同じことが言えます。現在は様々な法律や公的制度が整い、大きな社会福祉法人だけでなく、小さなNPO法人や株式会社でも福祉サービスの提供をすることができている時代です。若い人が思い切つてチャレンジすることもできます。もちろん大きな社会福祉法人の存在も地域には必要不可欠ですが、一方で小さな法人が、多種多様な福祉サービスを展開することは、サービスの受け手側(当事者やそのご家族)としては選択肢が増え、それぞれの生活の豊かさに繋がっていくと考えています。何が好きなのか、どんな生活を送りたいのか、将来どうしたいのか、どんな雰囲気の人や場所がいいのか、きつとその思いや考えは十人十色、まさに多種多様なはず。だとすれば、提供するサービスも多種多様であるほうがきつといいはず。そんなことを思つた梅雨のある1日でした。

具体的には、地域や社会の問題解決に取り組むこと(いわゆるこれまでの市民活動)に身の

つれづれなるままに

今年は関東地方も例年より遅れて梅雨入りしたが、雨が少なく体感としては感じられない日々である。この時期を楽しむのに紫陽花は欠かせない。

新緑とのコラボで雨に映える色彩を持っている。忙しい日々を送っている私たちにとって、ふと、足を止め紫陽花にひと時心を奪われるのも、花鳥風月を楽しんで来た人の心を取り戻す瞬間なのではないか。

今日の、徹子の部屋で、NHKのキャスターを長年務めてきた、国谷裕子さんが出演していた。黒柳さんの職人技とも言える軽妙なトークに、国谷さんの硬いイメージから想像できない、TVキャスターとしての過去の様々な話が聞けてとても面白かった。国谷さんがキャスターを務める、午後7時30分からの、クローズアップ現代をよく見ていたので、30分という短い時間の中で、現代の世相・社

会を鋭く切り取り、グローバルな問題も解説していたので、大変参考になることも多かった。

キャスターとして、しっかりと自分の中に落とし込んで解りやすく話をしていたので、大変素晴らしい方だと思っていた。頭脳明晰、天性の資質もあると思うが、大変な努力をしていた事も感じることが出来た。海外向けのBSから見出され、総合番組へと抜擢を受けたが挫折、今度は国内向けのBS番組へと、そこで、クローズアップ現代のキャスターへと抜擢された経緯を話していた。25年というアナウンサー生活で、一面だけ切り取れば華やかな部分もあるが、実態は苦労の連続であり、フリーアナウンサーではあるが、初めて民放の徹子の部屋に出演した。(クローズアップ現代も番組編成の中で様々な報道があり放送が打ち切られた経緯がある。)

黒柳さんと国谷さんの話を聞いていて、華やかな部分ばかり

だと思っていたが、そうでもないということがわかり妙に安心した次第である。

この話を聞いていて思い出した言葉がある。緒方貞子さんが国連難民高等弁務官をしていた時代、紛争地帯に颯爽とへりから降りる姿がニュースで映されたこともあったが、国連総会でのスピーチの中に「忍耐と哲学をかければ物事は動いて行く」というフレーズがあった。仕事というものは、大なり、小なり困難にぶつかることが多い、不遇の時には耐えながら、時節が来ることを待つ。そして、チャンスが来たときにそれをしっかりとつかめるよう、自身を磨く努力を怠らないということが大切な事なのではないかと思う。本会も新規事業をスタートして一か月が過ぎ、事務所を新たに設けて職員体制も整え、本格始動であるが懸案事項もあるので、それらを整えつつ、もともと本会が持っている事業所(資源)とのリンク出来るものは連携

Natural Café+Shop hanahaco



営業日：11時～16時（定休日：火曜）

木更津市矢那 1879-1

電話：0438-38-4368 メール：info@npo-cw.net

Facebook：https://www.facebook.com/hanahaco/k/

し、それに、独自にオプションを加えることによつて、更に充実した事業展開が出来るよう、着実に前に進めたいと思つているので、関係機関・各位のご支援とお力添えをよろしくお願ひ申し上げます。

(総合施設長 齊藤 操)

きもの地サロン	ヨガサロン	穂垂るの会
<p>着なくなった着物をほどこき、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。</p> <p>開催日：7月11日（月） 7月25日（月）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 鶯嶺の家（50 - 0285）</p>	<p>健康管理、仲間づくりにヨガをはじめませんか？</p> <p>旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。</p> <p>開催日：7月6日（水） 7月20日（水）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 ありさ（50 - 0362）</p>	<p>介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。</p> <p>開催日時：7月14日（木） 13:30～15:30</p> <p>会場：ふれあいセンター 経費：200円（お茶代）</p> <p>主催・連絡先：穂垂るの会・井上 (090-7171-1701)</p>

ときがね・街かど福祉塾

「ときがね・街かど福祉塾」は、東金・山武地域の市民や福祉・介護・子育て・まちづくり関係など、人に関わる活動や仕事をしている人たちの学習の場、思いの共有の場、新たな縁（えにし）の場づくりとして実施しています。

東日本大震災以降中断していたものを、昨年10月より、月1回ペースで実施しています。ぜひ、ご参加ください。

対象：興味のある方ならどなたでも
定員：30名

（問合せ先：ちば地域生活支援舎
Tel:0475-53-3630）



《第11回》

「生活困窮者の支援を考える

司法と福祉の連携から（仮題）」

日時：平成28年7月12日（火）

18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室

講師：常岡久寿雄

（弁護士・たすく法律事務所）

《第12回》

「コミュニティビジネスを学ぶ（仮題）」

日時：平成28年8月23日（火）

18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室

講師：筒井啓介

（コミュニティワークス 理事長）

《第13回》

「誰もが自分らしく地域で暮らし続けるために・・・あるべき相談支援とは（仮題）」

日時：平成28年9月13日（火）

18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室

講師：朝比奈ミカ

（中核地域生活支援センター
がじゅまる 所長）

ときがね な ひととき

鴉嶺の家（高齢者・障害者）

福祉に対する気持ちは熱いが、外気の暑さにめっぽう弱い、夏が嫌い！今月号もそんな男性職員がお送りします。

福祉という仕事に携わり4年、まだまだわからないことばかりですが、鴉嶺のご利用の方やそのご家族、鴉嶺のお母さん、スタッフ、または他の福祉関係者たちに助けて頂きながら少しずつではありますが成長出来てきているよう感じます。もちろん私より若いスタッフも順調に経験を積み重ねていますし、お

母さんたちも今までに増して若者を育てようと奮闘中です。

しかし経験や知識が増える一方、今までの自分より悩むことは増えています。

前月号でスピリッツの記載にありましたが、「見極め」と「バランス」の必要性を本当に理解した上で行動しているのだろうか？介護保険でも生活介護でも本来なら自立に向けた支援を行うべきだが、つついスタッフの方が全てを手伝ってしまっていないだろうか？先入観からこれは出来ないだろうと決めつけてしまっているだろうか？知識や経験のない頃の自分だったらどう行動しただろう？慢心していかないか？と……気になることが沢山です。

でも、めげずに、職員間で支援について話し合い、議論し、考え、成長していきたいと思えます。

最後に、「福祉はケースバイケース……だから面白い！」と思うようになりました。

鴉嶺の家（児童）

新年度が始まり、あつという間に2ヶ月が経ってしまいました。最近は暑かったり、寒かったりと体調を崩している方も多いのではないのでしょうか。沢山栄養を摂り自己管理をしっかり行っていききたいですね。

今月号はR君のお話をしたいと思います。

通い始めた頃はまだ歩けず、お母さんと離れる事が寂しくて泣いていたR君。今ではとても賢いお兄さんに。自分の食器を片付けたり、おむつをゴミ箱へ捨てたり、こちらの話もよくわかってくれます。

時にはお友達とケンカをすることも。けれど、ケンカが必ずしも悪い事だとは思いません。ケンカをする事も子どもにとっては大切な成長過程だと思えます。自分の感情をしっかりと持っている証拠ですよ。

ケンカをする姿も何だか微笑ましくてつい笑ってしまいました。

す。子ども達に笑顔とパワーを貰う毎日です。

これから夏に向けて暑くなるので皆さん熱中症には気を付けて下さい(^-^)

子ども支援センターぽけっと

庭の紫陽花が色づき始め、かたつむりが顔をのぞかせる季節となりました。

先日、小学一年生のY君が、新しく仲間入りしました。人懐っこい彼は、特に中高生のお兄さん・お姉さんをスタッフと思っているようで積極的に関わろうとしています。

リモコンが好きなY君は、録画したアニメをリモコンで行き来させて楽しんでいる中学二年生のR君に「かーしーて」と二・三回繰り返しお願いしたところ、同年代のお友達だと貸してあげるまでちょっと時間がかかったりする事が多いR君ですが、Y君には、リモコンを「はい」と手渡ししていました。

また、おんぶが好きなY君。私たちより体の大きい高校生のR君やT君に、笑顔で近づいてはどうか背中に乗ろうと四苦八苦。それでも二人のお兄さんたちは怒る事もなく、困るとスタッフに目配せしたり、呼んでくれたりして対応してくれています。

現在ほけつとでは、三歳から十八歳までのお子さんをお預かりしています。大きいお子さんが小さいお子さんに融通を利かせてくれたり、小さいお子さんが大きいお子さんに甘えたり、やり過ぎて怒られたり、異年齢ならではのこんな素敵なやりとりが増えていくといいなあと願っています。

サポートセンタースピリッツ

先日、利用者の方と盲学校に伺う機会がありました。私は初めて行ったのですが、盲学校に勤めていらっしゃる教員の方々

の中には視覚障害がある方が多いというお話を聞きました。また、視覚障害がありスピリッツを利用されている方においても、日頃からアクティブに活動をされている方が多い印象を受けます。

一般的に視覚障害、または目が見えないと言っていると、「出来る」ことが少ないのではないかと「不便なことが多そう」といったイメージが先行されがちです。私も当事者の方々とこうして接点を持つ前はそのようなイメージが強かったように思います。しかし実際に関わってみると、想像以上に自立されているケースが多いです。(そこに至るまでの過程は図りしれませんが...) 今後も、先入観に囚われ過ぎることなく、柔軟な価値観を持つて支援に携わっていかれたらと思います。

街かど福祉相談室と

5月は1日の気温差が10度以上あったり、真夏日を記録したりとジェットコースターに乗っているような陽気でした。6月は梅雨の季節でジメジメしたイメージがありますが、毎日雨が降っているわけではなく、曇りや梅雨の中休みといった晴れ間もあり、実はそれなりに良い季節ではないかと思っています。以前にもお伝えしましたが、親御さんと一緒に来ると来るお子さんのためにおもちゃを用意しています。おもちゃで遊んでいるのを(一緒に遊んだりもします)見て、こんなおもちゃも必要かしらと増えていきました。少し前の話ですが、増えたおもちゃを整理しようとおもちゃ箱(事業所名ではありません)を用意しました。が、それからというもの子どもの来所がぐんと減り、おもちゃ箱のふたは閉じられたままです。おもちゃたちも退屈な思いをしてい

るでしょう。

ハンドワーク

◆生活介護

これから梅雨の時期になり、じめじめ、じとじとと、嫌な陽気になっていきますが皆さんはいかがお過ごしですか？

ハンドワークの生活介護で、ハンドの一角にコスモスの苗を植えました。植えた時は頼りない苗でしたが、少しずつ成長してきました。利用者さんと職員とで散歩をしながらひまわりの種と日々草の種を購入し、プラントナーに種を蒔いて育てています。ひまわりは元気なもので、種蒔きをしてからすぐに発芽し、週明けには大きく成長していました。

来月は、利用者さんも何人か増えていきますので、生活介護だから出来ることを利用者さんと考えながら楽しくやっていければいいなあと願っています！

◆就労継続支援B型

新年度を迎え、あつという間に1ヶ月が過ぎ、ハンドワークでは新たな職員を迎えてのスタートとなりました。

新しい職員が配属されると、必ず皆で自己紹介をしています。今回はいつも静かなAさんがいつの間にか司会進行に！以前はそういった事に興味を示すことの少なかったAさんの行動に驚く中、Aさんは張り切って「はい、じゃあ次は○○さんー！」「○○さんまだ話していないでしょう？」等々、張り切って進行を務めていました。そんなAさん、「どんなテレビが好き？」等の直接的な会話は難しいよう、人伝に聞こうと他の職員を通して質問。「本人に聞いてもらんよ、答えてくれるよ？」という促しにも、恥ずかしいのか、照れているのかモジモジ。声を掛けるにはハードルが高い様子。焦らず急がず、このまま他者への興味・関心が育ってくればと思う一場面でした。

ありさ

先日県民の日のイベントがあり、販売に行ってきました。すぐ目の前でブラスバンドの演奏や仮面ライダーショーがやっていて、ありさのメンバー達も大興奮でした。販売の傍ら、曲に合わせて歌って踊って大盛り上がり。更に、ご当地ゆるキャラが勢揃いだったこともあり、撮影会にもなっていました。さて、羽目を外した話はここまで。先ほども記したように、仮面ライダーショーが行われるイベントという事で、小学生くらいまでの年代層に合わせた商品を沢山作って持っていました。ビーズ小物や、シュシュ、メガネ立て（動物シリーズ）が沢山売れました。売れていく商品を見る度、「あつ！これは○○さんの作った商品だね」と声を掛けると、本人も「ヤッター！！」とハイタッチ。自分たちの作ったものが売れていく喜びを感じられた一日でした。

五根の家

◆小規模多機能ホーム

「今日みたいなこんな日はどこかお出かけしたいな！」雲一つない晴天の5月のある日、ご自宅から五根の家に向かう車中でAさんが言われた言葉です。その日は他のお年寄りも「今日はいいい天気ね！」と話され、スツツと相談して数人で海に行くことになりました。

海に着くと空に映えるパラグライダーが数機飛んでおり、指をさしてスツツに教えて下さる方もいました。

浜辺には浜屋顔やハマナス（ハマナス）が咲いており、お年寄りの中には「きれいなお花ね」と話され、それを摘んでお土産にしている方もいました。「またこんなお出掛けがしたいわ」と話されている方もいました。

前もって計画をしてお出掛けするイベント行事も楽しいですが、日々変わりゆく季節を感じ

ながら、お年寄りとの何気ない会話を通じて行き当たりばったりの外出も、色々と思わぬ発見があつて楽しいものですね。

これからお年寄りの笑顔が沢山見られるような関わりをしていきたいです。

◆グループホーム

つい先日まで桜が満開で春の訪れを告げていたと思ったら、いつの間にか新緑の季節となっていました。田んぼの田植えもほとんど終わり、五根の家の周りの田んぼからも、夜はカエルの合唱が聴こえてきます。

お年寄りの方々からは、「カエルの声は懐かしくて心地よいね」「月日が経つのは本当に早いものね」と笑顔が見られました。

さて、5月8日は母の日でした。ご家族や親しい近所の方が面会に見られた時、カーネーションを渡され、メッセージカードに『いつもありがとう』『からだを

動かすんだよ。がんばれ!』等と書かれていました。そのカーネーションを見た時のお年寄りの穏やかな笑顔が大変印象に残りました。

これから梅雨を迎え、夏の季節となります。今年の夏は特に暑くなると新聞やテレビでよく耳にします。

また、季節の変わり目で体調も崩しやすい時期となりますので、お年寄りには勿論のこと、私たちスタッフも体調管理に気を付け、皆さんで清々しい夏を迎えられればと思います。

地域福祉情報・相談センターりんく

営業…午前10時～午後8時
場所…東金シヨッピングセン

ター「サンピア」内1階
(ステージコート脇)

内容…福祉、介護、子育て、
ボランティア・市民活動
に関する情報提供、相談

法人事務局

当法人では、平成28年5月より、東金市の委託を受け「東金市生活困窮者自立相談支援事業」の業務を開始しました。概要は、ホームページ又はチラシをご確認ください。

スタッフ募集

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方、一緒に働きませんか？
日数・時間・曜日・内容(介護・保育・支援・食事づくり・清掃など)・年齢等ご相談に乗りません。

興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(0475533630)

ボランティア募集

趣味や特技、仕事を通じて身につけたスキル、体力等、自分らしさを生かしたボランティア活動をやってみませんか？

ボランティア活動を通じて得られる効果は無限大です。

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(0475533630)

編集者のつぶやき

先日、約1年ぶりに早朝波乗りへ…ボードに跨り、朝日を見ながら波を待ち、そしてイイ波が来たら乗る。なんとも堪らない瞬間だ…そして、早朝の海でしか出会わない仲間達とのたわいの無い会話も…。久しぶりにリフレッシュ(jerry)

先日、障がいを持った方が男性に付き添われて電車に乗っているのを見かけました。各駅に着くたび人が出入りする姿や、すれ違う電車、電車から見える風景を生き生きと見ていました。普段電車に乗った時はスマホを見ていたり寝てしまうことが多いですが、楽しそうに電車に乗っている姿を見てなんだか穏やかな気持ちになりました。(W)



ちばしゃ通信
(Vol.20)

発行日：2016年6月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630